

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°33 ドメーヌ・ド・ベル・ヴュー

生産地方：ロワール

新着ワイン2種類♪

VdF ペティアン・ナチュレル キュヴェ ビュル・イット 2015 (白泡)

ミヤム・ミヤムから名前をビュル・ヒットと変え、エチケットもペティアンの泡をペイントボールに見立たデザインに一新！ちなみに、エチケットのデザインはコペンハーゲンにあるクービュンス・フィスケバー (Kodbyens Fiskebar : ノマのソムリエだったアナス・セルマーが立ち上げたレストラン) によるもの。泡は細かくタイトで、粘性のあるエキスを心地よい苦みのあるミネラルが締める！アフターの苦みが食欲をそそる食前酒にピッタリなペティアンだ！

AC ミュスカデ キュヴェ・グラニット 2015 (白)

2015年は、ブドウに病気がなく収量も取れた近年まれにみる当たり年！ジェローム曰く、今まで仕込んだグラニットの中で一番テロワールの個性が反映されたワインに仕上がったとのこと！味わいは、いつもよりもふくよかで、樹齢をしっかりと重ねたミュスカデの塩辛いミネラルの旨味がしっかりと感じられる！ちなみに、2016年のグラニットは霜の被害により90%減とほとんどない…。

美味しい飲み頃ワイン2種類♪

AC ミュスカデ・セーヴル・エ・メーヌ 2015 (白)

2015年は、ブドウに病気がなく収量も取れた近年まれにみる当たり年！ジェローム曰く、2005年や2009年、2015年など超当たり年のワインは、必ず余韻に上質なマールのような風味が長く残るのだそうだ！確かに、今回の2015年ワインは余韻にマールのようなフレーバーが長く残る！味わいも、いつも以上にしっかりと強い潮のミネラルを感じる！この強い塩辛く味の強いミネラルが、生ガキはもちろん貝料理全般と相性が良さそうだ！

IGP ヴァル・ド・ロワール赤 ラ・モヌリー 2012 (赤)

「ラ・モヌリー」はアンフォラと古樽熟成のアッサンブラージュ！2012年のメルローは、開花の前に花が流れてしまい、収量が例年の半分に落ちた上に、さらにワインの目減りの早いアンフォラ熟成でワインの約半分の量をウィヤージュに使うことになってしまい、結果的にヘクタール当たりのワインの量は20hLにも達しなかったが、ワインは十分エキスが詰まっている！

更に瓶熟を重ねメルロー特有の赤土のようなニュアンスとアンフォラのタンニンが混ざり合い、また塩味のあるタイトなミネラルが溶け込み、上品な味わいに変化を遂げている！

ミレジム情報 当主ジェローム・ブレトドーのコメント

2015年は、近年まれにみる当たり年！ヴィニョロンとしては、ほとんど畑仕事をしなくても良いくらい完璧な年だった！春は長雨や霜もなく穏やかな気候でスタートした。開花も順調に行き、6月の時点で豊作が期待された。その後、8月までほとんど雨が降らず、病気もほとんど見られなかった。雨が降らないので多少水不足が心配されたが、夏が比較的涼しかったので、日照りもなくそのままブドウもゆっくりと成長して行った。9月に入り適度に雨が降ってくれたおかげで、ブドウの成熟にエンジンがかかり、最終的には果汁豊かな傷ひとつない完璧なブドウを取り入れることができた！

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き



写真① ディーヴに立つジェローム

(写真①) こちらは先般開催されたロワールの自然派ワインサロン「ラ・ディーヴ・ブティユ」のスタンドに立つジェローム♪写真を見たら分かるが、かつてデビューしたころの初々しい面影はなく、あごひげを蓄え厳しい顔で見つめる姿からはベテランの風格が感じられる。この時も、ジェロームのスタンドは人でごった返っていて、最前線にたどり着くまで20分は要した。今やそれくらい人気のヴィニョロンだ！

できれば今回笑顔の写真を取めたかったが、残念ながら彼から終始笑顔が見られなかった。それもそのはず、スタンドでのお客さんとのやり取りのほとんどは新規クライアントの断りで、本人も多少当惑気味の様子だった。「試飲をさせても、売るワインがないのが本当に残念で仕方がない」と嘆くジェローム。実際、彼のワインのストックは全てリザーベーションが入っていて、今仕込んでいる2016年のワインも、春の遅霜とミルデューにより、ミュスカデ・セーヴル・エ・メーヌはゼロ、その他のワインも少々しかない深刻な状態だ…。ドメーヌ立ち上げ10年目にしてやっと軌道に乗り始めた彼にとって2016年は試練の年となってしまったが、2017年、畑を5ha増やし早くも精力的に始動している。

「ミュスカデは地形上平らな場所が多く、風がないと湿気が溜まりやすいので、霜や病気に弱い。常に気候に左右されやすいブドウにとって難しい地域」と説明するジェローム。区分では大西洋気候なのだが、実際は2016年のように、年によっては気温差が極端な大陸性気候の影響も受けるのだそうだ。

今年は今のところ冬も寒く、去年のように遅霜のリスクに遭うようなことはなさそうだ。ぜひとも、今年は2015年のように霜も病気もない豊作の年に恵まれることを願いたいものだ！

(2017.2.5.の自然派ワインサロン「ラ・ディーヴブティユ」訪問より)